

予報期間 6月23日から6月29日まで

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 台風第7号については最新の台風予報を参照。
- 25日は、低気圧が日本海を北東進し、前線が本州付近にかかる。
- 26日は、低気圧が三陸沖に進み、前線が本州付近にのびる。
- 27日から28日は、低気圧が千島近海を東へ進み、前線が本州付近に停滞する。太平洋高気圧が日本の南に張り出す。
- 29日は、高気圧がオホーツク海から日本海へ張り出す。前線は華南から東シナ海にのびる。太平洋高気圧が日本の南に張り出す。

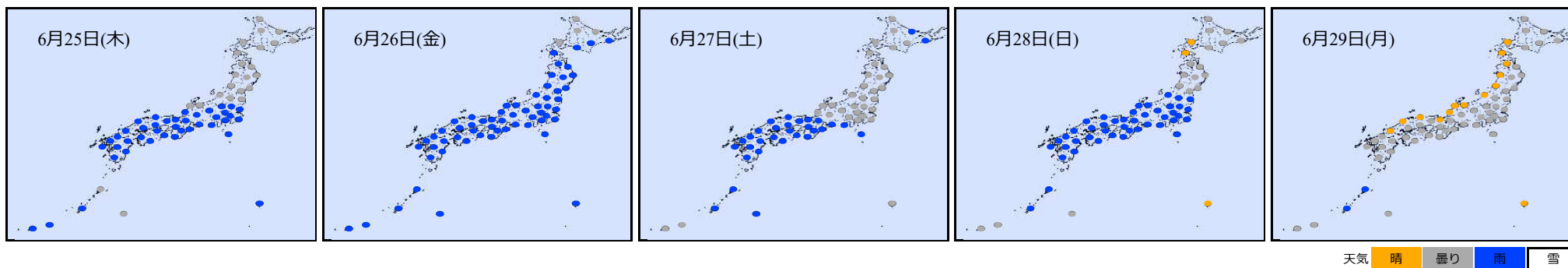
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 25日頃は、西日本を中心に前線や暖かく湿った空気の影響で大雨となり、前線の活動の程度等によっては、警報級の大雨となるおそれがある。
- 25日から27日頃にかけて、沖縄・奄美では台風第7号の影響で荒れた天気となり、台風の進路等によっては暴風や大しけとなるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

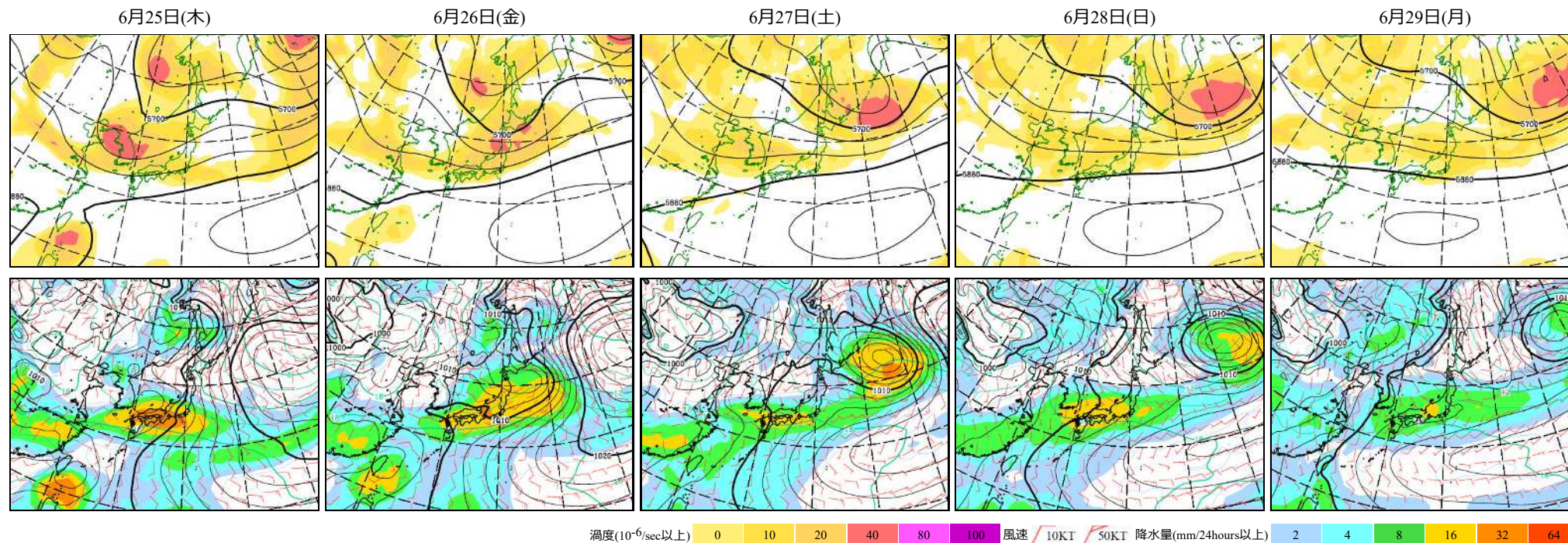
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

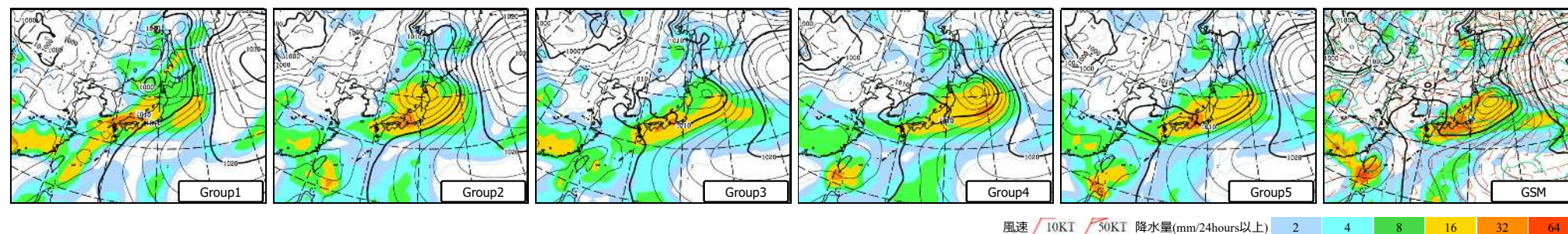


- 北日本から西日本は、曇りや雨の降る日が多いが、29日は晴れる所がある。
- 沖縄・奄美は曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆6月26日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、25日から26日にかけて日本海を東進するトラフについて、メンバー間で位相が揃ってきたため深くなるとともに、進みが早まった。また、日本の南の太平洋高気圧については中心の位置がやや南西に移り、28日頃は東日本を中心に500hPa高度場がやや下がった。地上の気圧配置は、25日から26日にかけて日本海を北東進する低気圧が明瞭となった。その後、27日頃から太平洋高気圧が日本の南で西に張り出し、本州付近では28日頃から相当温位の傾きが大きくなり、前線が停滞する予想となった。対応して降水確率が6日目の東日本・西日本で広く上昇している。
- 26日頃に日本海を進むトラフは、モデル間の差が小さくなったが、27日以降の進みにはモデル間の差がある。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考えるが、29日頃はアムール川下流のリッジに対応してオホーツク海で高気圧が明瞭となるとみられる。外国モデルも参考に、高気圧が日本海へ張り出して、本州付近では一時的に前線が消えると考え。